

地方公共団体における人権教育事業の実施状況に関する調査研究  
事例調査票

様式2

(財)人権教育啓発推進センター

|                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| 実施自治体・担当課（連絡先） | 名古屋市女性会館 事業係<br>電話： 052-331-5288 |
|----------------|----------------------------------|

1. 概要

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 事業名                         | ナチュラルライフをめざして～お互いの人権を大切に～                           |
| 主催(共催)                      | 名古屋市女性会館  |
| 実施年月日・実績等<br>*回数・参加人数・作成部数等 | 実施年月日 2004年5月～7月 毎週水曜日 午前の部 定員 30名 合計8回 参加人数 述べ220人 |
| 開催場所                        | 名古屋市女性会館  |
| 対象                          | 一般市民(女性・男性 30名)                                     |
| 人権課題                        | 人権全般 特に女性、子ども、同和問題                                  |

2. 事業内容

|   |
|---|
| <p>(1)事業の目的<br/>差別・偏見・風習・思いこみなど、わたしたちの中に目に見えない心のかべを取り除くような「心のバリアフリー」をめざす。自分を大切に、人を大切にしながら、平等で心豊かな暮らしをめざすようワークをとりいれながら学習をする。</p> |
|---|

- (2)事業概要
- ①自己紹介～改めて考えたい「人権」講座～
  - ②大切にしたい子どもの心と人権
  - ③子どもに対する虐待
  - ④女性に対する差別をなくすために
  - ⑤家庭の中の女性の人権
  - ⑥同和問題・差別の根源を考える
  - ⑦同和問題・差別の解消に向けて
  - ⑧違いを認め共に生きる
- ～21世紀を真の「人権の世紀」とするために

(2)-1 連携状況  
なし

(2)-2 特色・工夫した点(広報の方法も含む)  
「なごや人権施策推進プラン」に基づき人権問題としての同和問題を取り上げ、正しい理解と認識を深めるよう学習提供した。  
マイノリティー女性についても取り上げた。受講者自身の問題として考えることができるようにワークを取り入れ参加型にした。

(3)参加者の反応・事業の反響等

- ・ワークが多く、他人の考えがよくわかった。
- ・知らず知らずのうちに相手に不快感を与えるような表現を避けなければならないと思った。
- ・同和問題がこんなに根深く残っていることがわかった。

(3)-1 反省点・今後の課題  
同和問題をはじめ人権に関する正しい理解と認識を深めていくような学習提供事業は、継続して実施すべきだと考える。